

進路決定までに必要な心構え

- 進路を考えるにあたって -

株式会社 開倫塾

代表取締役社長 林 明夫

1. はじめに

(1) 人間の一生とは—「一生勉強、一生青春」—

35 歳ころまでは「勉強」

70 歳ころまでは「仕事」や「社会的活動」(「子育て」も)

105 歳ころまで「自由・自在」に生きる(ただし、「いつまでも若々しく生きる」こと)

(2) 幸せな人生とは何か

「多様な選択肢」を持つこと

(3) 「進路決定」にあたって

「多様な選択肢」の中から進むべき路(みち)を決定することを心掛けよう

2. 自分の人生において「多様な選択肢」を持つには

(1) 現代はどのような社会かを知る努力をすること

「知識基盤社会」

「グローバル化した社会」

「超高齢化社会」(ただし、発展途上の世界は「人口爆発」)

(2) 現代社会で求められる鍵になる基本的能力(キー・コンピテンシーズ)とは

「知識・情報・技術などを相互作用的に用いる能力」

「多様な集団で行動する能力」

「自律的に活動する能力」

(3) 「読書」をして「熟慮・熟考・省察する能力」を身につけること

—「書き抜き読書ノート」をつくること—

* 「新聞」を読んで考え、「批判的思考能力」を身につけること

「学び方を学ぶ」(Learning To Learn)能力を身につけること

—「自己学習能力」を身につけること—

3. 考えるべきこと

(1) どのような生き方がしたいのか

— 何のために自分は生きるのか —

(2) どのような仕事、社会的活動、個人としての生活がしたいのか

「仕事」とは何か

— 何のために働くのか —

(ア) 生活できるだけの収入を得るため

(イ) 仕事を通して自己実現するため

* このような「仕事」のことを「Decent Work(ディーセント・ワーク)」と呼ぶ
「社会的活動」とは

(ア) 「ボランティア活動」

(イ) 「非営利組織(NPO)の活動」

(ウ) 「非政府組織(NGO)の活動」

(3) 何のために進学するのか

進学した学校で何をしたいのか

進学した学校を卒業後どのようなことをしたいのか

(4) 70歳すぎてからどのような生き方をしたいのか

— 自由自在に何がしたいのか —

4. 今なすべきことは何か—学校での勉強と生活を大切に—

学校での勉強は社会で役に立つのか、受験勉強は社会で役に立つのか

(1) 小学校、中学校、高校、大学、短期大学、専門学校、大学院で学ぶことはすべて世の中に出て役に立つ。一生役に立つ。

全教科、役に立つ

学校行事、教科外活動はすべて役に立つ

(2) 高校入試の勉強も社会に出て役に立つ。不確かであった義務教育(9年間)の内容を受験勉強を通じて正確に身につけると考え、積極的に取り組もう

(3) 「本」を読み、考える能力を身につけよう

— 辞書の使い方、図書室・図書館の使い方を身につけよう —

(4) 「新聞」を読んで考え、批判的思考能力を身につけよう

(5) 「学び方を学ぶ能力」を身につけよう

— 「ノート」の「取り方」「整理の仕方」「理解の仕方」「定着の仕方」 —

5 . おわりにー私の好きなことばー

- (1) 「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)
- (2) 「いつまでも若々しく生きる」(中村天風先生)
- (3) 「教育ある人とは勉強し続ける人」(ドラッカー先生)
- (4) 「ブルドッグ魂(食いついたら離すな)」(岡田忠治先生)
- (5) 「練習で泣いて試合で笑え」(椎名弘先生)
- (6) 「一所懸命(一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組もう)」(足利高校)
- (7) 「人生逃げ場なし」(石川洋先生)
- (8) 「捨てなければ得られない」(石川洋先生)
- (9) 「健康第一」(心の健康、身体健康)
- (10) 「躰(しつけ)とは、美しい立居振舞い(たちいふるまい)と敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)。中学生・高校生は美しく生きよう」

ー皆様の好きなことばは何ですか。教えてくださいー

以上

御清聴を感謝します。

がんばってくださいね。

ー2009年6月4日記ー